

影踏み遊び

影踏み遊び

影の不思議さやおもしろさを感じられるような影遊びとして、単元導入で影踏み遊びを行いましょう。鬼ごっこのように、ルールはシンプルなものにするとよいでしょう。

鬼を1人決め、他の人は鬼に影を踏まれないように逃げます。鬼に影を踏まれたら、その人が鬼になります。ルールは子どもの生活経験などを生かして、話し合いながら工夫していくとよいでしょう。

●問題意識をもたせるための留意点

影踏み遊びを通して、以下の3点を意識させていきましょう。

- ・影の位置
- ・影の動き
- ・日陰の体感温度

影に対する興味・関心をもたせていくのに、じゅうぶんな活動を保証し、繰り返したり試したりする時間を計画的に組み込んでいきます。

●影踏み遊びの工夫

子どもの走力の影響が浮かび上がらないように、コート of 広さに配慮する必要があります。広さは人数によって調整しましょう。

例：ミニバスケットボールのコートの広さ

タテ 22 ~ 28m ヨコ 12 ~ 15m

コート内で影踏み遊びを行うと、太陽と影の関係を感じやすくなります。また、追いかけ方や逃げ方の工夫もやすくなります。

●天候を意識した活動計画

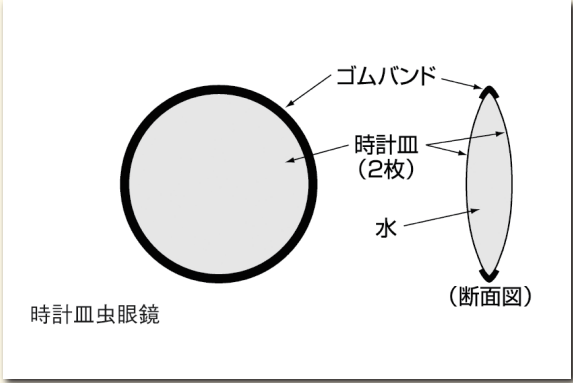
影踏み遊びは晴れの日にはできないと思われがちですが、雲の多い日に行くと、太陽と影の関係を感じやすくなります。午前と午後で2回行うことができると、影の向き(逃げる方向)が変化し、影の動きと太陽の位置の関係に着目しやすいでしょう。

また、コート内に建物や木の影が入っていると、ゲーム中に休憩できる場所になったり、日なたと日陰の違いを比較したりすることができます。

子どもの水分補給や、こまめな休憩を取りながら活動することに配慮し、熱中症などを防ぎましょう。また、太陽を直接目で見ないように、子どもにはじゅうぶん注意させましょう。



時計皿虫眼鏡・安全上の注意事項





虫眼鏡がなくても、窓際に置いた水栽培のガラス瓶や水槽などで、日光が小さな部分に集まり、火災を起こすこともあるので気をつけましょう。

